

糸島半島における農園訪問型グリーンツーリズムの可能性

○ 九州大学 学生会員 大瀬花梨
九州大学大学院 正会員 樋口明彦
九州大学大学院 正会員 榎本碧

1. 背景・目的

近年の糸島半島は、海、山、田園風景などの自然、おしゃれな店や直売所などを目的とした観光客が集まり、賑わいを見せている。平成25年の糸島市（糸島半島の過半をなす）への年間観光入込客数は、約533万人にのぼり、そのうちの98.8%にあたる約527万人が日帰りで糸島市に訪れている。自然豊かな糸島半島で育てられた野菜は、かつては全国の農産物と競合する状況であったが、現在では糸島ブランドとして定評がある。糸島ブームと時を同じくして、1990年代後半から、ファームハウス、伊都彩菜などの直売所が登場し、大変大きなビジネスへと成長している。このような直売所では、生産者の名前や顔写真、農園名、農薬使用状況まで記載されている場合が多い。そして、何よりも糸島半島における地産地消の効果が得られている。しかし、この方法では、生産者と消費者のつながりが未だ間接的である。そこで、次の段階として、糸島半島の一部の農家では、農園を消費者に開放するというアイデアを検討している。これは、生産地が明確で、生産者の顔が見られるという現在の直売所の状況からさらに一段階進んでおり、個々の農産物の生産現場を消費者に見てもらい、生産地や生産物の付加価値を高めるという発想であり、新しい形態のグリーンツーリズムと位置付けることができる。本研究では、糸島半島来訪者を対象とした意向調査を実施することにより、糸島半島における農園訪問型グリーンツーリズムの可能性を把握することを目的としている。

また、本研究では、糸島半島来訪者の誘導サインのデザインに関する指向性についても調査を実施した。これは、農園訪問型グリーンツーリズムを具体化する上で、農園の位置を来訪者に知らせるためのサインには、どのようなデザイン性を付加することが適切か把握することを目的としている。

2. 調査方法

2.1 アンケート調査

糸島半島の来訪者を対象とし、農園に訪れることへの関心、農園で実際に行いたいアクティビティーの内容を調査した。アンケート実施地として糸島市志摩桜井にある2ヶ所の直売所を選んだ。これは、直売所来店者の中には、農産物の生産地への関心が高い人が多いと考えられるためである。来店者の多い晴天の休日に対面型で調査を実施し、100名から回答が得られた。図1に上記直売所周辺の農地の状況を示す。



図1 糸島市志摩桜井の農地

2.2 サイン調査

糸島半島ではどのようなサインが好ましく思われているかを知るために、糸島半島（旧志摩町、旧二丈町中心）に現在あるサインを160件撮影し、サイズ、色などで類型化した上で、24件のサインを抽出した（図2）。アンケート調査に応じてくれた糸島半島来訪者に、これらの中から、糸島らしいサイン、糸島らしくないサインを1枚ずつ選んでもらい、その理由を回答してもらった。



図2 抽出した24件のサイン

3. 結果と考察

3.1 アンケート調査結果と考察

アンケート調査では、農園を訪れることに興味があるかという質問に対して、「興味がある」と回答した人が100人中53人となり、過半数だった。また、このうち「とても興味がある」と回答した人は全体の約4分の1にあたる24人だった（図3）。この結果より、糸島半島では消費者が農園に訪れるという次の段階に進む可能性があると考えられる。また、具体的なアクティビティーとしては、「農業体験をしたい」という回

答が最も多く、次に農園で収穫されたものをそのまま、または調理されたものを「食べたい」という回答が続いた。農園の方々が望むアクティビティーは、消費者が農園に足を運び、農産物を作る現場を見学し、購入してもらうことだが、ここでミスマッチが生じている。これに関しては、今後の調査で、さらに糸島半島来訪者や農家に調査を行う必要がある。

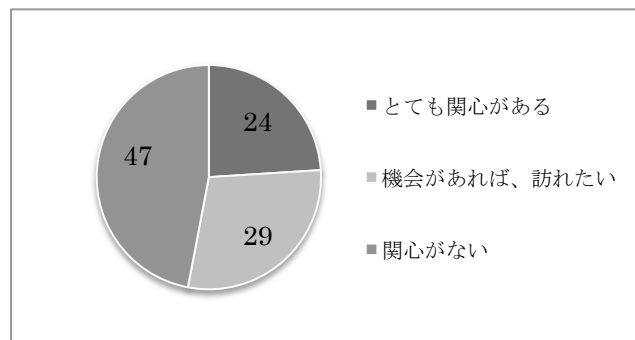


図3 農園訪問への関心（単位：人）

3.2 サイン調査結果と考察

糸島らしいとして選ばれたサイン上位3件（図2のうち14、6、8）の共通点は、サイズが小さい、落ち着いた色合いである、目立ちすぎていない、材料が木材、木材の自然の形を生かしている、手作り感がある、文字が手書き風という点だった。また、糸島らしくないとして選ばれたサイン上位3件（図2のうち15、22、24）の共通点は、サイズが大きい、派手な色合いである、遠くからでも目立つ、材料が金属という点だった。これらの結果より、企業などが人を呼び込むために設置した目立つ看板は、来訪者が求めているものとは程遠いこと、糸島半島来訪者が求めるサインは、目立たないもの、親しみやすいものであるということが分かった。自然が豊かな糸島半島では、サインは自然を生かしたものが最適であると考えられる。これから、農園内外に設けるサインは、人工的要素を極力控え、自然に近いデザインとすることが来訪者の好みに合うと推察できる。